

文化・芸術



「下落合風景」

1926年ごろ、油彩、カンバス
59・8センチ×72・8センチ
(個人蔵)

佐伯祐三（1898～1928年）

大川美術館コレクション展示「昭和初期の洋画—新宿下落合に住んだ画家たち」から

〈名画の扉〉

佐伯祐三は、東京美術学校を卒業後の1924年にフランス・パリへ渡りました。26年に一時帰国し、翌年再度渡欧するまでの短い期間を新宿区下落合で過ごします。この間、二科展では渡欧作を特別陳列して二科賞を受賞し、新進画家として注目を集めました。

佐伯はこの短く下落合の時代に、この地の風景に没頭します。坂道の遠近、舗装途上の石造りの街路と高い壁に囲まれたパリとは異なる郊外の風景の中で、構造的なもの、硬い形を探し出そうとする視線が、次第にかたまりを得ていきました。

（小此木）